

## 第 11 期 第 2 回 男女平等参画推進審議会議事録（要旨）

開催日時	平成 23 年 10 月 27 日（木）午後 7 時～9 時
開催場所	立川市女性総合センター 第 2 学習室
出席者	露木肇子、長島佐恵子、野中映、川合薫、佐舘泰延、中村陽子、太田靖敏、片野勸、二場美由紀 事務局（部長以下 5 名）
傍聴者	なし
配布資料	<ul style="list-style-type: none"><li>立川市第五次男女平等参画推進計画実施状況報告書について（諮問）</li><li>立川市第五次男女平等参画推進計画の年次評価方針について（提案書）</li><li>立川市第五次男女平等参画推進計画実施状況報告書（概要版）</li><li>説明補足資料</li></ul>
議 事	<p><b>1 開会</b></p> <p><b>2 総合政策部長の挨拶</b></p> <p><b>3 議事</b></p> <p style="padding-left: 2em;"><b>協議事項</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>立川市第 5 次男女平等参画推進計画実施状況報告書（平成 22 年度年次報告）について</li></ul> <p>会長                                    それでは第 11 期第 2 回男女平等参画推進審議会の議事を進めさせていただきます。事務局のほうから報告事項の説明をお願いします。</p> <p>男女平等参画課長                    まず、評価の進め方についてご説明いたします。第 5 次男女平等参画推進計画の年次評価の方針について審議会の予定回数や時間との制約があることから 8 月 24 日に長島会長、露木副会長、事務局の間で年次報告や評価の進め方について打ち合わせを行いました。その中で次のように評価を進めていきたいということになりましたのでご報告いたします。まず、市は平成 22 年度に実施した事業について各担当課の状況を調査し、自己評価を行ったうえで審議会の皆様に報告をいたします。この自己評価は段階評価方式によらず、当該課の事業がだれを対象に何の目的で行うのか、対象の数量や達成目的における想定数量は何</p>

	<p>かを評価し、可能な限り数量化して示します。その後これを計画の32の取り組みごとに自己評価を行います。これを審議会の皆様に評価をしていただきます。次に審議会での評価について説明いたします。委員の皆様には市の年次報告について内容を確認したうえで、計画書に示された13の施策分類に従って区分し、この区分ごとに評価をしていただきます。評価は記述式評価とします。委員の意見や意図がより明確に表現するため記述式が妥当であると考えました。また、評価作業は多くの時間を要すると思いますが、審議会として能率化を図るため、委員を二つのチームに分け、作業を進めることとしました。チームの内訳については委員の皆様の得意分野等を考えて振り分けさせていただきました。計画のテーマⅠ、テーマⅡの評価を長島会長、野中委員、佐舘委員、中村委員、矢野委員、太田委員にお願いしたいと思います。テーマⅢ、テーマⅣの評価を露木副会長、二場委員、佐藤委員、片野委員、川合委員にお願いしたいと思います。この評価方法及びチーム分けについてはあくまで案ですのでご議論をお願いします。</p> <p>大きな4つのテーマで評価をするのは大きすぎると思いますし、32の取り組みで評価をするのも細かいので、真ん中の13の施策ごとに評価をしていくこととしました。評価については点数をつけていくという方法もありますが、点数よりも記述式で具体的に改善点などを指摘したほうが実があるのではないかということで記述式にいたしました。また、テーマⅠとⅡ、テーマⅢとⅣでグループ分けをして評価をしていったほうがいいのではないかということで分けさせていただきました。ご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。</p>
会長	
委員 A	<p>記述式ということですが、文字数の制限などなにかありますか？</p>
男女平等参画課長	<p>文字数の制限などはありません。説明補足資料として実施状況報告書を施策ごとに集約してさらに簡潔にまとめたものを用意しました。表の下にはコメント欄があります。評価をしていただく際にこちらに記入するなどしてご活用いただければと思います。</p>
会長	<p>説明補足資料にある審議会の意見の欄はかなり小さいで</p>

	<p>すが、ご意見がたくさんあればこの欄の枠にとらわれずに記入していただきたいと思います。ただし、ある程度ポイントを絞っていただいたほうが後で見たときに分かりやすいと思います。</p> <p>これからチームに分かれて意見交換をしていただきますが、その前に全体についてご意見のある方はいらっしゃいますでしょうか。</p> <p>委員 B 2つ確認したい点があります。まず、お送りいただいた実施状況報告書について質問と意見があります。これはチーム分けをする前ですがお聞きしてもよろしいでしょうか。それから2点目は評価についてですが、評価の物差しがそれぞれで違うと思います。ましてやチームに分かれてしまうとそれぞれのチームの物差しで測ることになると思いますが、今までですと事業に対しての集客人数や内容について評価の対象だったわけですが、今回はそれをさらに市側で自己評価し、実際に行われた事業内容とその自己評価をさらに私たちが第3者からの目で評価をするということでしょうか。</p> <p>会長 2点目のご質問についてはそのように評価をしていただくこととなります。1点目の質問については内容によってはチーム分けをした後でチームの中で議論することはできますので、簡単にここで発言していただいて結構です。</p> <p>委員 B 簡単に質問をさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施報告書1ページの女性市民が0歳からの人数になっているが、対象数として適切であるかどうか</li> <li>・17ページの事業所数と25ページの事業所数が違うのはなぜか</li> <li>・21ページの立川市の自殺率が28.68%というのは数字としておかしいのではないか</li> <li>・25ページの事業所への働きかけで4つの事業があるが、事業名が違うのに講座開催数と講座参加者が同じになっているがこれはどういうことか</li> <li>・28ページの①労働法や男女雇用機会均等法、育児介護休業法の周知について事業活動がガイドブックの作成・配布ということが書かれているが、もう少し他にはなかったのか</li> </ul>
--	---

	<p>・29ページの③民間団体主催講座への支援で支援団体数が2に対して講座開催数が9回というのはどういうことか</p> <p>実施状況報告書を見ても読み取れない部分があるかあり、評価するにはその都度事務局の方に聞かなければならないと思いました。</p> <p>総合政策部長 検討作業の際には事務局が近くにおりますので、その都度聞いていただければと思います。</p> <p>会長 後程グループに分かれていただきますが、最初から評価を始めるわけではなく、本日はわからない点などを事務局の方に聞いていただいて確認をする作業をしていただければと思います。</p> <p>それでは、グループに分かれて議論を進めていきたいと思っています。</p> <p>計画のテーマⅠ、テーマⅡについて（Aグループ）</p> <p>出席者 長島佐恵子、野中映、佐舘泰延、中村陽子、太田靖敏、事務局（主任以下2名）</p> <p>まとめ役には長島佐恵子委員を選任した。</p> <p>会長 今後の流れについて再度確認いたします。本日はわからない点などを事務局の方に聞いていただいて確認をする作業をし、第3回目ではグループの中で評価を出す作業を行い、第4回目ではその評価をグループ内でまとめる作業を行い、最後の5回目ではBグループも含めて全体でまとめるというスケジュールになるかと思っています。評価についてはまずはグループ内で話し合っって評価の方向性を決めて、そのあと施策ごとに担当を決めて評価を書いていくという進め方もできると思います。</p> <p>委員C では、本日は報告書の中身について疑問点などを挙げていただきたいと思っています。</p> <p>事務局 1ページの①生き方や働き方を考える講座の開催について、対象数が0歳児を含む女性市民となっているのでしょうか。</p> <p>事務局 講座の対象者を立川市の女性の人口で載せましたが、年齢</p>
--	--

	<p>についてはご指摘の通り、見ている方に違和感を与えているかもしれません。ここで、講座の対象者を出すのは難しい所がありました。具体的に講座については何歳から受けられるという決まりはありませんので、どの年齢で区切るのか判断が難しいというのが一つと、ここで立川市民と書いておりますが、実は講座を受けられるのは市内在住者に限っておりません。都外の方が受けても構わないのです。対象数については数字を入れるのが難しくても何かしらの数字を入れるよう指示を受けておりましたので、ここでは市民の女性人口を対象数として入れました。</p>
委員 C	<p>ここでの対象は意味がないと思います。入れないほうがいいのではないのでしょうか。</p>
委員 G	<p>数字を入れることでかえって分かりづらくなることもありますので、ここは空欄にしたほうがよいと思います。</p>
事務局	<p>この件については再度、事務局のほうでも議論させていただきます。</p>
委員 G	<p>同じ事業がいくつもの項目に出てきているのはなぜですか。</p>
事務局	<p>一つの事業の中に複数の目的が含まれているものがあります。例えば市民企画の講座では市民への啓発という目的以外に団体の育成が含まれています。そういったものがいくつもの項目で出てきております。</p>
委員 C	<p>1 ページの①生き方や働き方を考える講座の開催について、継続参加人数が 1 1 人で講座開催数が 5 回なのに参加人数が 5 4 人というのは計算が合わないと思いますが。</p>
事務局	<p>5 回の講座の途中で 1 回欠席してしまった方がいらっしゃいますので、5 5 人にならずに 5 4 人となっています。</p>
委員 C	<p>2 ページの事業所数と 2 5 ページの事業所数が違いますか。</p>
事務局	<p>ここに載せる対象数は最新の統計データから引き出すということになっていますが、事業所・企業統計調査は平成 1 8 年が最後となっています。ここで平成 2 1 年の東京都の経済センサス基礎調査の速報値が出ました。市のほうの調査の関係では公表された時点でそちらを載せることになっています。ワークライフバランスのほうに載っている数字は誤りです。2 5 ページの 8, 2 0 4 が正しい数字で</p>

		す。
委員 G		3 ページの②ワークライフバランスを実現しやすい環境整備への働きかけと7 ページの地域の子育てネットワークづくりについて伺いたいのですがそれぞれの成果指標はどのような数値を使っているのでしょうか。
事務局		各所管で独自に行っているアンケート調査や市民意向調査の数値を使用しています。
委員 G		2 1 ページの立川市の自殺率が 28.68%とありえない数字になっているのはどういうことでしょうか。
事務局		自殺率とは人口 1 0 万人当たりの自殺者数をいいます。%という単位はわかりにくいですが、間違えているわけではありません。
委員 G		この単位には違和感がありますのでもう一度確認してください。
		次に 2 0 ページの②生活習慣病予防のための対策の実施で成果指標にある正しい知識を習得した人の割合などの指標はどのようにとっているのでしょうか。
事務局		生活習慣病予防教室などの事業のあとに行ったアンケート結果を使っています。
委員 D		1 7 ページ①自治会活動への参加の呼びかけの対象は自治会未加入世帯で成果指標は自治会加入世帯となっているのでこれを合計すれば立川市の世帯数ができます。こういう形がわかりやすいと思います。
事務局		1 ページの講座の対象数のような場合には当てはめるのは難しいです。
委員 D		2 ページの①働きやすい環境づくりに取り組む事業所の表彰について、成果指標に表彰事業所が 0 事業所と書いてあるが、2 3 年度から実施する事業については成果指標自体入れる必要がないと思います。2 2 年度実績 0 という書き方だと、表彰されるような事業所がなかったように見えます。
委員 G		2 3 年度実施のはずなのに、成果指標のところ企業内保育室設置園数に数字が入っているのはどういうことでしょうか。
事務局		こちらについては企業内保育室の設置が働きやすい環境づくりに取り組む事業所の表彰に値するという意味合い

委員 A 事務局	から、このように報告されたものだと思います。これについて適正な指標になっているかということと、23年度以降実施の事業について成果指標を載せるかどうかについて再度検討いたします。
会長	報告書はこの形式で作成すると決まっていますか。 レイアウトについては決まっておきませんが、項目についてはこの内容で作成していく予定になっております。レイアウトについては、全体で議論する際にご提案いただきたいと思います。 まだ疑問があると思いますが、時間になりましたので一旦持ち帰っていただいて、何かあれば事務局にお問い合わせください。 次回は11月24日(木)午後7時から開催いたします。では、以上で審議会を終了いたします。
計画のテーマⅢ、テーマⅣについて (Bグループ)	
出席者	露木肇子、川合薫、片野勸、二場美由紀、事務局(部長以下3名)
まとめ役には露木肇子委員を選任した。	
委員 B	概要版P29「③民間団体への支援」の事業活動に「二次的被害を出さないための知識を学んだ」と書いてありますが、二次被害を出さないための講座をした訳ではありません。このまま市民に出されても、市民はわからないのではないのでしょうか？
事務局	注釈が無いと、数値だけではわかりません。 また、成果指標の22年度実績の講座開催数が9となっていますが、講座は2回ではないのでしょうか？
委員 B	講座の延べ回数が9回ということです。 概要版P1の対象は「女性市民」となっていますが、0歳から対象というのは妥当なのでしょうか？また、概要版の17ページと18ページの市内の事業所の数が7,735ですが、25ページの市内事業所数は、8,204となっています。数値が違っていると、信憑性が無くなると思います。
委員 E	数字だけ見ても内容を見ないとわかりません。
委員 B	参加者の感想が大事だと思います。男女平等参画は数値で

	<p>図れるものではありません。活動の成果が大事だと思います。</p>
委員 E	<p>参加人数より満足度のほうが評価としては分かりやすいと思います。</p>
委員 F	<p>概要版の 29 ページの No. 42 の対象は全市民になっています。DV の被害者の 99% は女性ですが、男性が被害を受ける場合もあるのでここはそのままが良いと思います。</p> <p>これからは、アンケートを必ずとって、満足度を図る必要があると思います。</p> <p>概要版 P1 の自己評価に、「参加者が少なかったため、今後はテーマを変えて事業展開していく必要がある」とありますが、果たしてそうなのでしょうかね？ 広報の出し方ひとつで違ってくると思います。自己評価は誰が書いたのでしょうか？</p>
男女平等参画課長	<p>自己評価はすべて男女平等参画課で書きました。確かに主観的であると思います。自己評価が甘いということも含めて、委員さんにコメントを書きたくて書いていただきたいと思います。</p>
委員 F	<p>概要版の 1 ページの活動指標の参加人数が 54 人で成果指標の継続参加人数が 11 人とありますがどうなのでしょうかね？</p>
事務局	<p>54 人は述べ人数です。</p>
委員 F	<p>述べ人数の場合は、「延べ」と入れるべきです。</p> <p>前回の報告書は、ABC の三段階評価だったので、今回は改善が見られます。</p>
委員 B	<p>報告書の最初に自己評価についての説明を入れるべきです。</p>
総合政策部長	<p>13 の施策のコメントを全員が書きますか。それとも自分のグループの分だけ書きますか？</p>
委員 B、委員 F	<p>全部書く方がいいです。</p>
男女平等参画課長	<p>フォーマットを作ってお送りします。とりあえず、自分の班の分を書いて、男女平等参画課宛に送ってください。</p>